

障害のある子どもの構成学習と概念形成

一触運動感覚フィードバックのある教材と学びの主体性一

企画者	福田 奏子（東京都立葛飾盲学校） 佐島 毅（筑波大学人間系）
司会者	福田 奏子・佐島 毅
話題提供者	吉岡 陶子（千葉県立盲学校） 福田 奏子（東京都立葛飾盲学校） 金井 沙彩（東京都立葛飾盲学校） 岡宮 彩奈（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
指定討論者	市川奈緒子（白梅学園大学子ども学科）

KEY WORDS: 構成学習 触運動感覚フィードバック 教材

【企画趣旨】

子どもの学びへの意欲や主体性を育むこと、その先から考え行動する力を育むことは、障害の種類・程度・有無にかかわらず全てに共通する普遍的な教育の「役割」である。本来、子どもは自分自身で、何でもやってみたい、学びたいという内なる意欲と知的好奇心を持っている。

私たちは、障害の状態に合わせて特別に学習環境を調整し、教材・教具を工夫し、日々実践していくことが重要である。子どもは、直接的に物を操作して、弁別、分類するなどの活動を通して概念を形成していく。その中でも、積木やブロックなどの構成学習は空間・量の概念の基盤となる学習活動であるが、視覚に障害のある子どもは視覚的に参照ができない等の理由から、特別な工夫が必要である。本シンポジウムでは、視覚障害幼児児童、重複障害児における企画者自身の触運動感覚フィードバックのある教材を用いた主体的学びの実践知をもとに、障害のある子の構成学習と概念形成について、フロアーとともにさぐりたい。

【話題提供者の要旨】

話題提供 1：数量概念の基礎を育む分解合成課題を用いた盲幼児に対する指導と課題の順序性（吉岡陶子）

分解・合成は数の系列化を促し、数記号操作としての加減算の基礎となるが、盲児では日常生活での分解合成経験が少なくなるため、構造化された教材を用いた適切な環境での分解合成活動経験が重要である。今回、触運動感覚によって課題の理解しやすい分解合成課題を作成し指導したところ、触覚を通して長さや量を把握しようとする手の使い方や量の違いへの気づきの様子を捉えることができた。課題の難易度に関する調査結果とあわせて、教材作成の配慮点、対象の特徴抽出に必要な触察能力、盲児における分解合成学習の意義について話題を提供したい。

話題提供 2：触運動感覚によって実施可能なはめこみ構成課題を用いた盲幼児に対する指導実践-教材の応答性・試行錯誤・課題の難易度の視点から-（福田奏子）

盲児にとって構成学習は上下左右などの基礎的な空間概念を育む上で重要であるが、一般的な構成課題では積木が崩れることや視覚的に参照ができない等の理由から、課題を工夫する必要がある。特に、盲幼児や盲重複障害児においては、触運動感覚によって操作がしやすく、課題達成が分かりやすい教材が必要である。触運動感覚によって実施可能なはめこみ構成課題を作成し指導したところ、試行錯誤を重ねながら主体的・意欲的に課題に取り組み、認知的様相の変化を捉えることができた。その実践をふり返り、教材の応答性・試行錯誤・課題の難易度と学習への意欲について述べてみたい。

話題提供 3：盲幼児児童における比較参照手続を用いたブロック構成課題の指導と課題の順序性（金井沙彩）

盲幼児児童が比較参照をして構成課題を行う際には、見本と自己の構成物を行き来しながら触り比べなければならず、継時的情報を統合して全体と部分の関係把握をする必要があるため、視覚のそれに比して極めて難しいといえる。一方、見本を比較参照して構成する学習は空間概念形成の基礎のみならず、小学校以降の地図やグラフ、図形などの触図や観察・実験などの触察による教科学習の基盤となる活動であることから、盲児にとって重要な発達課題である。今回、触運動感覚によって課題理解のしやすいブロック構成課題を作成・指導したところ、試行錯誤を重ねながら見本と構成物を比較参照して、意欲的に取り組む様子が見られた。課題順序性に関する調査結果とあわせて、教材の応答性・比較参照に必要な手の動き、そして盲児における立体的構成学習の意義について話題を提供したい。

話題提供 4：盲重複障害幼児における弁別学習から構成学習への指導過程（岡宮彩奈）

乳幼児期は直接的に物を振る・叩く、出し入れ、弁別・分類・構成するなどの活動を通して概念を形成する。すなわち視覚-運動協応（目と手の協応）の中に知の創造の基盤があるが、盲乳幼児は視覚せずに（視覚フィードバックなしに）触運動感覚によってその試行錯誤的経験を重ねる必要がある。今回は、1名の盲重複障害幼児の教材・教具を活用した学習を辿り、大小・形の弁別学習から初期の構成学習にうつっていく発達過程について述べたい。

【指定討論者の要旨】

主体的学びは、①個々の発達段階に応じた学習課題の焦点化、②障害特性に応じた学習環境・教材教具の個別化した創意・工夫、③子どもの能動的行為・活動と環境・教材との相互作用による体験に根ざした教育観によって成される。話題提供者の実践からの示唆を整理した上で、環境や教材を準備する私たちは、いかにして子どもの意欲や主体性を引き出したらよいかについて、3つの観点から議論を深め、障害のある子の構成学習と概念形成の本質を共にさぐりたい。

【文献】

佐島 毅(2016) 視覚障害. 新発達心理学ハンドブック, 福村出版, 742-751.

福田奏子他(2014) 盲幼児における触運動感覚を通して実施可能なはめこみ構成課題の難易度に関する事例的検討. 障害科学研究, 38, 137-145.

(FUKUDA Kanako, SASHIMA Tsuyoshi, YOSHIOKA Toko, KANAI Sayaka, OKAMIYA Ayana, ICHIKAWA Naoko)